

マイケル君ありがとう！

8月6日夕刻自宅近くで、10万円入りの財布を無くしました。国内で油断していたためか、日本円に加え、ドル札も数枚入っており、ドルも円も赤いパスポート（身分証明書用に失効穿孔したのを携帯しています）まで、外から見える状態で紛失したのです。この10万円は政府からの助成金で、1銭も遣わず残していました。

アフリカ・中東・中南米・およびバングラデシュなどに、COVID-19により、出張出来ずにいますが、解除になれば、真っ先に飛び出さねばならない立場です。途上国での、この10万円の使い道を色々考えていました。日本では10万円でも、途上国では200万円以上の値打ちが有るのです。20戸、100人の集落に供給できる浄水装置も作ることが出来ます。

貴重な財布を落として、一晩落ち込んでいました。翌7日、警察に届けても居ないのに、南警察署から落とし物が届いている旨の電話がありました。出頭すると、再び愛用の貴重品入れが還ってきました。信じられない思いでした。

お礼は届けてくれた人と話すようにと、係官に助言を頂き、早速、連絡を取り自宅で会いました。大阪市立中学校1年生で、お父さんはボストン生まれの米国人、お母さんは日本人、マイケル君と言うハーフの少年でした。空手道場に行く途中で拾ったそうです。

一目で貴重品と判ったので、躊躇なく急いで南警察に届けたそうです。

私は100%届かないと思い込み警察にさえ届けもしなかった。

澄んだ目の、礼儀正しいマイケル君と話すうちに、私自身が人の正義感、良心を信じていなかった事に、強い罪悪感を覚えました。

私の様な考えは正しくないですよ？

私達大人は純粋な青少年の正義感、道徳心を育てる事が重要な義務です。特に私の活動は道徳教育や、様々な教科書に掲載されています。

マイケル君に貴重な事を教えていただきました。

現在は茶色の帯だそうで、1年後には黒帯になるのだと言っています。

理科が大好きというので、今度浄水実験を教える約束をしました。

しっかりと相手の目を見つめて、空手方式で挨拶するのが大好きだそうです。

マイケル君の様な青少年が居てくれて、背筋が伸びるほど勇気を頂きました。